

男鹿海洋 男鹿工高 統合計画

特色ある学科新設を

協議会、市に報告書提出

男鹿地区高校統合に関する「教育委員会の安田浩幸教育長協議会（進藤吉彦会長）は25日に提出する。

2校の統合方針は、第7次男鹿海洋高校と男鹿工業高校の統合校について、特色ある学科の設置やカリキュラムの編成をすべきとする報告書を菅原広二市長に提出した。本県沖で進む洋上風力発電の関連分野で活躍する人材づくりを想定した内容。市は要諦書としてまとめ、4月にも県



報告書を菅原市長に提出する進藤会長（右）

報告書では、作業員輸送船の船員や施設のメンテナンスを担当する技術者など、洋上風力発電事業では専門的な知識を持つ人材が求められると指摘。水産、工業という両校の特徴を組み合わせ、全国に先駆けて特徴的な学科を設置するよう県教委に強く要望するよう提案した。遠方からの入学や女子生徒の増加にも対応できるように、寮の新設も求めた。

統合校の設置場所について

は、船川港に近く、水深10以上の屋内プールがある男鹿海洋業、雇用関係者ら委員13人で構成。これまでの4回の会合から通学する生徒の利便性を考慮して船越地区へ設置する意見の双方が示された。報告書を提出した進藤会長は「日本各地で洋上風力発電の機運が高まる中、全国に先駆けて専門的な高校をつくることは意義深いこと。両校の良さを組み合わせ、新しい学校をつくるイメージで粘り強く取り組んでいきたい」（藤田祥子）